

参考資料：岡山縣上道郡古都村史、現代古都の郷、ふるさと古都
岡山史蹟めぐり（岡山市立西大寺公民館古都分館）、岡山市の地名

山陽道

宇喜多直家が備前を統一し、沼城から岡山城に移り（天正元年＝1573年）城下町を建設したとき町の繁栄策のひとつとして、従来の山陽道（藤井―宿―土田―国府市場―三野―辛川）を南に移し、岡山城下を通過させようと計画した。

藤井から南西に穴甘―長岡―乙多見―藤原―原尾島から森下を経て内山下桜の馬場、さらに中之町と下之町の間を通り中山下から西に出て万城山を越え、辛川に至る道路を開いた。

直家は天正九年に死去し子の秀家があとを継いだが、新山陽道の建設は直家が計画し秀家が継承完成させたものと考えられる。

江戸時代を通じて山陽道は参勤交代、長崎奉行の往来、伊勢詣や金毘羅詣の旅人、江戸、大阪へ急ぐ商人たちの往来で古都の村々もにぎわったことであろう。特に、藤井は宿駅が設けられ本陣、旅籠屋、問屋などが並び繁昌した。